

図画工作科

坂井容子
谷本克典

1 図画工作科における知識創造とは

造形とのかかわり

私たちの身の回りには、すばらしい造形の世界が広がっている。しかし、既にすばらしい世界があり、その世界を私たちが享受しているのではない。私たちは、目前の対象から造形的なよさや美しさを感じたり、それに基づいて考え、表現したりしている。この造形から働きを受け、働きかける双方向の関係によって、すばらしい造形の世界を自らが広げ、作り出しているのである。図画工作科では、この双方向の関係を「造形とのかかわり」ととらえた。

造形に対する価値観

その造形とのかかわりを支えるものは、一人一人に内在する造形に対する価値観（以下「価値観」とする）である。どのようなものによさや美しさを感じるか、どのように“考え、表現する”かという「価値観」が、広がり、更新されることで、造形とのかかわりが豊かで新しいものになっていく。

図画工作科の役割

図画工作科の役割は、子どもの実態に応じて、意図的、計画的に造形との出会いをつくり、子ども一人一人の「価値観」を大切にしながら、造形とのかかわりをより豊かで新しいものになるよう支援していくことである。そして、そうした造形とのかかわりを通し、子どもは、自分の思いや夢を色や形に託して実現させることに喜びを味わう。

*1 「自分にとって新しいもの」とは、これまでの自分をふり取り、更新をくり返しながら生み出した、自分にとってこれまでにない「感じ、考え、表現したこと（行為も含める）」を指す。

「自分ならではのもの」とは、他とのかかわりの中で自分が育み、見いだした他の誰とも同じではない「感じ、考え、表現したこと」を指す。
(本校授業第59集)

子どもは、既存の「価値観」をもとに造形とのかかわっていく。そして、他の様々な「価値観」との出会いの中で自らの「価値観」を広げたり、様々な「価値観」とつなげる中で自らの「価値観」を更新したりしていく。常に広がり、更新された「価値観」をもとに自分の思いや夢を実現させていくのである。これは「ひと」「もの」「こと」の背景にある様々な「価値観」との出会いの中でこそ実現されていくものでもある。そして、一人一人の「価値観」がより豊かで新しい造形とのかかわりを育み、集団としての「価値観」を広げていくのである。このくり返される営みの中で、自分の思いが実現され、自分にとって新しいもの、自分ならではのものが^{*1}がつくり出されていく。

これらの考えをもとに、私たちは図画工作科における「知識創造」を以下のように定義した。

図画工作科の知識創造

自分の思いを実現させていく中で 様々な「価値観」と出会い つながりながら
自らの「価値観」を広げ 更新する営み

2 図画工作科における「かかわり」の活性化とは

図画工作科における「かかわり」の活性化とは、自分の思いを実現させるために、今の自分でよいのかと自問自答し、互いに様々な感じ方、考え方、表現の仕方を求めている状態であると私たちはとらえている。

3 「かかわり」を活性化するために

(1) 比較を通して「かかわり」を求める思いを高める

*2 ここでいう「自分」「他」とは、それぞれが「感じ、考え、表現したこと（行為も含める）」を指す。その背景には、それぞれの「価値観」が大きくかかわっている。

「かかわり」を求める思いを高めていくために、常に「比較」という視点を大切にしながら学習を展開する。それは、次の三つに集約されると考えている^{*2}。

- ①「今の自分とこうなりたいと願う自分」との比較
- ②「自分と他」との比較
- ③「今の自分と前の自分」との比較

これらの視点によって、つくり、つくりかえ、つくりつづける自分を認識することができると考える。それは、他はどうなのだろうという思いと自分の思いを実現させる意欲を喚起し、「かかわり」が活性化され、より充実した知識創造をうながしていくだろう。

(2) 知識創造のプロセスを意識し 四つのステージを設け 有効に機能させる

*3 図画工作科では、知識創造の四つ(想起・表出・共考・結合)のそれぞれモードの中にも、四つのステージを意識し、「かかわり」を創出していく。ここでの四つのステージはそれぞれが独立し、順序立てて流れるとは限らない。互いに関係し合い、あるステージがくり返されたり、不連続にジャンプしたりする場合もあるととらえている。
(本校紀要第56-59集)

*4 例えば、表現のための時間や空間の保証、必要な材料を自由に使える環境、表したいことに合わせた材料や用具の扱い方の提示である。

*5 最初に発想し、構想してきたことと比べてどうなのか、部分だけではなく全体としてみた場合どうなのか、今の自分でまた試みられることはないのかなどを観点とする。

*6 この相互鑑賞は、エ、とも関連し、自己評価活動の一つに位置づけられている。相互鑑賞の際、例えば、鑑賞カードとして複写式メモパッドを適宜使用する。複写式なので、表現や取り組み万のよさを捉え記述したものは、その場で相手に渡すことができ、自身の手元にも残りふり返ることができる。

*7 自己評価活動には、三つの段階があると考えている。

ア 自己達成評価
イ 相互評価
ウ 自己客観評価
(本校紀要第56集)

その方法としては、自らの感じたこと、考えたこと、表現したことをふりかえりカードや作品カード、作品の写真(途中過程も含めて)、相互鑑賞カードなどを用いて記録したものを活用していく。

知識創造にかかわる四つのモードを意識しながら、自分の思いを実現させていくために、一人一人の「価値観」の表れを中心とした四つのステージ³を設け、有効に機能させていく。

ア 既存の「価値観」をもとに造形に働きかけ 自分の思いや意図をもつステージで

まず、表現への期待と、様々な表現を試そうという意欲をもとに自分の思いをもつことが必要である。そこで、働きかける対象は子どもにとって興味や関心を引くものであること、その造形のよさ・働きかける行為の楽しさ・行為の結果生まれるよさを十分に感じられることを大切にしながら造形との出会いをつくっていく。そして、さらに多様な表現の可能性を感じ取れるようにするために、働きかける対象から、それぞれが感じ、考えたことを表出し合う場を設ける。そこから、新たな、またはこだわりを認識した自分の思いや意図がつくられることになる。

イ 自分の思いに合わせて 感じ 考え 表現するステージで

自らの「価値観」をもとに、自分の思いを実現させるための活動に教師も共感し、より積極的に表現に取り組めるように学習環境を整える⁴。そして、それぞれの思いや意図を把握し、個々の「価値観」が集団で認められるような場をつくる。そうすることで自分の思いの実現を支援していく。また、一人一人の提案や悩みを集団に広め、受け止められるような場をつくり、共に造形との新しいかかわりをつくり上げていこうとする集団の意識も高めていく。

ウ 自分の「価値観」と他の様々な「価値観」を関連づけて

「価値観」を広げ 更新するステージで

子どもは、感じ・考え・表現し、様々な造形とのかかわりから、また感じ・考え・表現し…と、不断にその結果を受け止め、判断しながら表現している。子どもの中では常に自分を見つめることが行われているが、ともすると狭い見方になる場合もある。そこで、造形活動の過程で、一人一人がその後の表現の指針となるものをもつことができるように観点を明確にした上で、自分の表現を見つめ直す⁵場を設ける。また、相互鑑賞する機会も適宜設け、互いのよさや表し方の工夫について、認め合い、アドバイスし合う⁶。その中から、友だちの表現や取り組みからも自分にはないよさや美しさに気づき、「価値観」を広げたり、更新したりしていくだろう。そうして関連づけられ新しくなった「価値観」で、子どもは、自らの表現を見直し、つくり、つくりかえ、つくりつづけていく。

エ 自らをふり返り 今の自分の「価値観」を認識するステージで

これら一連の造形活動の途中、そして最後に自己評価活動⁷を取り入れ、自己の学びを確認すること、またその要因を探ることを大切にしたい。

自己評価活動を通して、自分の思いの表れや「価値観」の変容を明らかにしていくことができるだろう。そこでは、表現の過程の中に点在する自分らしい表現のよさを見つけてつけたり、悩んでいたこと、それが解決に向かう過程、変わっていった自分をふり返ったりすることになる。そして、それらを交流し、よさをつくり上げることができた要因を話し合う中で、働きかけ、働きかけられた、ともに学ぶ姿も大切な価値として位置づけさせたい。

子どもが自分の思いを実現させていく過程は、ふりかえりカードの記述からも、一人一人の前の表現と今の表現の比較からも見取ることができる。「ひと」「もの」「こと」とのかかわり合いの中で、一人一人の子どもをとりまく場や素材、表現されたものが、その子どもの新たな表現を誘い出すものとなる。そうして絶えず変化していく表現を注意深く見守り、思いのよさの表れを認めていく。また子どもが発する言葉、つぶやき、悩む表情、笑顔、表現に没頭している姿など、その瞬間その子どもにながら起こっているのかも大切にしてみ取りを行い、声をかけながら、子どもの中の変容をとらえ、フィードバックしていく。それらの教師の働きかけも自らの変容を明らかにする相互評価として、自己評価活動を支えるものになっていくと考えている。

3 実践例 —5年—

(1) 題材名 “キモチ”を伝える～凸凹カラフルキャンバス～

(2) 本題材における知識創造

身近材や液体粘土などの素材のおもしろさを生かしてつくった凸凹キャンバスに「色」「形や線」それによる「表れ」にこだわりながら自分の“キモチ”が伝わるように色をつける活動を通して 様々な感じ方・考え方・表現に出会い 自らの感じ方・考え方・表現を更新していく営み

日常生活の中で、子どもはノートの端や運動場の土の上に思いのままに自由な線で、落書きを楽しむ姿が見られる。一見無意味な形や線は、後で見直すと何らかの意味をもって見えてくることがある。

本題材は、液体粘土と凸凹のある身近材などの素材でキャンバスをつくり、目に見えない自分の“キモチ”のイメージを様々な表現技法を試しながら相手に伝わるように色をつけることで、自分らしい感じ方・考え方・表現につなげていくことをねらいとする。

これまで、子どもは前題材の「あなたも感じて私の感じ」の学習の中で、対象（この場合は風景）から感じた自分の思いを自分が選んだ表現で絵に表し、「なりきりアーティスト・あなたも感じて私の感じ」で、他者の作品を作者になりきって紹介する鑑賞の活動を経験している。それらの活動の中で、自他の作品の交流の場をもち、互いの感じ方・考え方・表現を比較し、少しずつ自分自身の「価値観」を広げようとしている。子ども達は、自分の表現で描いた絵が他者にどう伝わっているか、もっと伝えるためにはどうしたらよいか思い返し、自分の表現を見直しながら、よりよい表現を探っている。

本題材は自分の“キモチ”をテーマに、つくろうとする作品のイメージをもち、それを描くための凸凹なキャンバスを段ボール・砂・ひもなどの身近材と液体粘土でつくる。その後、そのキャンバスに自分のイメージを「色」「形や線」それによる「表れ」に着目して相手に伝わるように表現する学習である。学習を展開するに当たっては図画工作科における四つのステージを以下の活動に位置づける。

- ・“キモチ”のイメージを形に表し、キャンバスの形を決める。【導入】
- ・“キモチ”のイメージに合わせて、身近材を重ねりや構成を考えて貼り、液体粘土で固めた凸凹ホワイトキャンバスをつくる。【製作Ⅰ】
- ・“キモチ”を表すための「色」「形や線」それによる「表れ」にこだわりながら絵の具で色をつけ、友達の表現に触れながら凸凹カラフルキャンバスをつくり上げる。【製作Ⅱ】
- ・完成した作品を使って「なりきりアーティスト」の活動をし、学習をふり返る。【鑑賞・評価】

“キモチ”という目に見えない無形のものを形にし、絵に表すには明確な答えがあるわけではない。キャンバスの形、身近材の構成、絵の具を使った表現において、子どもは発想面・技能面での不安を抱く。そこで、活動ごとに自他の感じ方・考え方・表現を比較し判断する場をもつ。例えば、単色で寒色系の「色」で表現した場合は悲しい“キモチ”に感じたのに、暖色系の色と組み合わせると楽しい“キモチ”に感じたり、寒色系でも曲線を使うと違う“キモチ”に感じたりする。そのことを、子ども自身がお互いの交流の中で表現の共通性と差異に気づき、自分の表現を見直し、その後の製作に生かしていく。また、画用紙とは違った凸凹画面上の「表れ」を楽しみ、道具やテクニックを選び、子どもは発想を広げていこう。それらの活動を通し、子どもは自らの「価値観」を広げ、更新していくと考える。

(3) 「かかわり」を活性化するために

① 本題材における「かかわり」の活性化

本題材の活性化の場面と表れの姿は次の二つである。

【導入】【製作Ⅰ・Ⅱ】の場面：製作のそれぞれの段階で、子どもが思いをもって表現する中で、互いの感じ方・考え方・表現の出会いを求める姿。

【鑑賞・評価】の場面：他者の表現からどう感じたか、また反対に自分の表現が相手にどう感じられたのかを伝え合うことで自分の見方・感じ方が他者の見方・感じ方と出会い、共感したり差異を感じたりしながら、更に自分の新しい見方・感じ方に気づいている姿。

② 本題材における「かかわり」を活性化させる手立て

ア 自分の思いや意図をもつステージで：【導入】 つくりたい“キモチ”を形にするのは曖昧で難しい。自分の表現に対する不安の解消のために隣同士・全体で見合う活動を通して共通点や差異に気づき、自分の思いを明確にさせるようにしたい。

イ 感じ考え表現するステージで・ウ 「価値観」を更新するステージで：【製作Ⅰ・製作Ⅱ】 子どもは液体粘土という新しい素材に出会い、つくることを楽しむことが予想される。しかし、題材名の『“キモチ”を伝える』からもわかるように、伝えることを意識した表現をめざしている。そのため、自分の“キモチ”が伝わるように表現できているかを問う場面をもつ。それによって生じる、揺らいだ状態から不安を解消するため、交流の場をもち、他の表現と出合わせ、「色」「形や線」それによる「表れ」に立ちかえり、表現の幅を広げたい。

エ 今の自分の「価値観」を認識するステージで：毎時間の授業のふりかえりに、自分が感じたこと・考えたこと・新しく発見した自分をワークシートに記入しながら自己評価活動を行う。【鑑賞・評価】では活動のまとめとして、自他の作品を見つめ・見つめられることから気づく「変わった自分」「新しく発見した自分」とは何か、どんな新しい学びにつながったのかを見つめ、「かかわり」の重要性に気づかせたい。

(4) 学習計画 (総時数 8 時間)

主な活動と内容	「かかわり」を活性化する手立てと教師の意図
<p>1 学習内容をつかむ ①</p> <p>○題材名や材料から思いを広げ 活動の見直しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスってどんなもの？絵を描くための四角くてザラザラした布でできているよ ・身近にある材料と液体粘土で凸凹キャンパスをつくらう ・出来上がったキャンパスに 目には見えない自分の“キモチ”を表してみよう <p>自分の“キモチ”を伝える 凸凹カラフルキャンパスをつくらう</p> <p>・“キモチ”に合うキャンパスの形を考えてつくらう</p>	<p>○自分の思いや意図をもつ場で</p> <p>表出</p> <p>ここでは、自分が表現しようとする“キモチ”を決めて、曖昧な自分の“キモチ”という抽象的なものをサークルマップを使って考えをもたせる。</p> <p>子どもたちは、“キモチ”を形に表すと安易にハートやクローバーなど具体物の形にしてしまうような傾向がある。子どもが描いた形を“キモチ”ごとに分類して黒板に貼ると、感じと形のつながりが見えてくる。例えばうれしい感じを表すのは曲線が適していることや、曲線を使った形にも様々な形があることに気づかせる。</p>
<p>2 凸凹ホワイトキャンパスをつくる ②③④⑤ 【製作Ⅰ】</p> <p>○“キモチ”のイメージを「形」「材料」「構成」にこだわってつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスの形を決めて段ボールを切っていこう ・砂 ひも ネット・・・材料をどんな感じに貼ろうかな <p>○液体粘土を塗る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液体粘土で 新しい身近材をくっつけられるよ ・液体粘土って面白いね 真っ白に変身したよ <p>○学習をふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○君の作品は 表面の凸凹がきれいに見えるね ・イメージに近づけるためにどんな色をつけようかな 	<p>○感じ考え表現する場・「価値観」を広げ更新する場で</p> <p>表出・共有</p> <p>キャンパスづくりでは仕上がりのイメージを意識して、自分の“キモチ”を表すために「形」「材料」「構成」にこだわってつくる。キャンパスの表面の凸凹は偶然にできた形ではなく、意図をもった画面づくりを目指したい。自分の“キモチ”を表すための象徴的なものをイメージさせて、様々な身近材の組み合わせや構成を考えさせることで、より自分のイメージを明確にできるからである。</p> <p>また、出来上がった自他のキャンパスを見つめ、今後の製作について見直しをもたせる。</p>
<p>3 凸凹カラフルキャンパスをつくる ⑥⑦ 【製作Ⅱ】</p> <p>○参考作品を見て表し方について思いをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線や曲線など線によってイメージが違うよ ・私たちの知っているテクニックとよく似ている <p>○色・形や線・表れにこだわってつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった凸凹ホワイトキャンパスに色をつけて自分の“キモチ”のイメージに近づけよう <p>○お互いの作品を見合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を見てみよう 同じ“キモチ”でも色や表し方が似ている所と違うところがあるよ 他の作品のよさを取り入れて自分のものとなげよう 	<p>○感じ考え表現する場・「価値観」を広げ更新する場で</p> <p>共有</p> <p>ここでは、色をつける前の自分の作品が、目指すイメージ通りに伝わるかを問う。今以上に伝わるように、参考作品で色つけについての指針を示す。参考作品の表現から「色」「形や線」それによる「表れ」に着目し、既習のものに似ていることに気づかせる。その後、製作の途中でお互いの作品を見合う時間をとる。友達の作品との共通点や差異に注目させ、「色」「形や線」それによる「表れ」の3点をポイントに板書に位置づけながらまとめ、今後の指針としたい。</p>
<p>4 鑑賞会をして学習をふり返る ⑧ 【鑑賞・評価】</p> <p>○「なりきりアーティスト」の活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を、作者になりきって紹介しよう ・温かい感じの色を使ってうれしい“キモチ”を表したよ ・私の作品は 悲しい感じを表すために ビー玉を転がして模様をつくったら 他の人にも伝わったよ <p>○学習のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“キモチ”を表すには色・形や線・表れに気をつけて描くと自分の“キモチ”が伝わったよ ・自分の見方・感じ方・表し方が広がったよ 	<p>○今の自分の「価値観」を認識する場で</p> <p>結合</p> <p>作品から受ける感じをそれぞれが作者本人になりきって紹介する。少人数のグループに分かれて、今の自分の見方・感じ方でとらえた思いをもとに話す。その活動を通して、友達の感じ方に共感したり、自分の感じ方との違いに気づいたりし、表した“キモチ”が「色」「形や線」それによる「表れ」によって伝わることを実感する。そして、様々な「価値観」に出会うことで自らの見方・感じ方を広げ、更新していくであろう。</p>

(5) 本題材における授業の実際と考察

この実践によって「かかわり」が活性化し、めざす知識創造の充実を促すことができたかどうか、教科論3「かかわり」の活性化のための手だてとして掲げた、

(1) 比較を通して「かかわり」を求める思いを高める

(2) 知識創造のプロセスを意識し 四つのステージを設け 有効に機能させる

は適切であったかについて考察する。

本題材を ①学習内容をつかむ ②製作Ⅰ ③製作Ⅱ ④鑑賞・評価 の四つに分け、それぞれの学習過程ごとに「かかわり」によって生まれる自らの感じ方・考え方・表現の変容を認識できるような題材構成を考えた。ここでは、子どもの毎時間のワークシートの記述や作品の変化、日記などをもとに題材全体を対象に検証していく。

一 ① 学習内容をつかむ の流れ一

1 題材名や材料から思いを広げ活動の見通しをもつ

○題材名からイメージを広げ 自分の思いをもつ

・キャンパスって何だろう？

「四角い形で白くて 絵を描くものだよ」

「ざらざらした布を張ってあるよ」

「表面がざらざらだと 絵の具がよくつくよ」

・“キモチ”は誰の どんな気持ち？

「自分の“キモチ”」

「作品に表したい特別な“キモチ”だよ」

「だから漢字じゃなくて“カタカナ”だよ」

「『喜怒哀楽』以外の“キモチ”もあるね」

・例示作品を裏返して（キャンパスの形に着目）

「なんか寂しい感じ」

「ゆるい曲線だからのんびり？」

・例示作品を表に返して（身边材の構成に着目）

「バラの花？花びらみたいな形が見えるから楽しい“キモチ”かな」

「激しい感じで いかりの“キモチ”？」

「太陽みたいな形でうれしい“キモチ”！」

「材料は布や木の切屑、プチプチマット」

「凸凹にすると もっと自分の“キモチ”が表せそうよ。」

「液体粘土を塗って白くするよ」

「“キモチ”が伝わるように色もつけよう」

自分の“キモチ”を伝える凸凹カラフル
キャンパスをつくろう

2 つくりたい“キモチ”を決めて キャンパスを形づくる

・サークルマップに思いついた形を描く

「曲線と直線では違う感じが出るのなぜ？」

・同じ“キモチ”ごとに黒板に提示

「友達の形は“キモチ”がわかる！」

「形が「決まったら 段ボールを切ろう」

① 学習内容をつかむ

ア 自分の思いや意図をもつステージで

本題材は、自分が表す“キモチ”を伝えることを目標に学習する。そのために、キャンパスの形づくり、身边材の構成、着色の三つの段階を経て、見る人＝（他者）にも伝わる表現をめざす。

最初に題材名から、次に参考作品をもとにめあてを話し合い、製作の見通しをもたせた。

●題材名や材料から思いを広げ 活動の見通しをもつ

気持ちを“キモチ”のようにカタカナと“ ”で表記した。そのことで子どもは、特別な意味のある気持ちを表していることに気づき、自分らしい気持ちを選ぶことにつながった。それは、37名の児童が、つくりたいと考えて選んだ“キモチ”が16種類に及ぶことから有効であったと考える（表1）。

まず、『“キモチ”を伝える』が本題材では重要なキーワードとなり、この場面以降の活動でも子どもの「かかわり」が活性化し、知識創造の充実につながった（詳しくは後述する）。

次に、教師がつくった例示作品を提示した（写真4）。作品（例示作品はうれしい“キモチ”を表現）を裏返し、形だけで“キモチ”が伝わるか問いかけた後、表に戻すと「すごい！」「何!？」などの声が上がリ、様々な考えが表出された。そして、キャンパスの形・身边材の構成を『“キモチ”を伝える』ようにつくること、液体粘土で真白にすることを告げた。例示作品では、うれしい“キモチ”を表す象徴的な具体物（太陽のような形）を身边材の構成でつくることで目に見えない抽象的な“キモチ”を表現したことを伝えた。

このように、全体の場で一つの例示作品と出会うことで、子どもは感じ・考えたことを表出することができた。また、自分の思いや意図をもつ場を設定したことで、この後の造形活動を具体的に理解させることができた。

●つくりたい“キモチ”を決めて キャンパスを形づくる

実際には見えない“キモチ”を形にすると、ハート型といった短絡的な思考に陥ることが予想される。イメージを直線・曲線・その複合型で考えさせ、サークルマップを用いて描いた。その中から『“キモチ”が伝わるかどうか?』を観点に、隣同士で相談しながらそれぞれのキャンパスの形を決めた。

次に、その形を大きく描いたものを、同じ“キモチ”ごとにまとめて、全員の作品を黒板に提示した。自他の作品を見合い比較しながら、形（直線的・曲線的）の効果に気づき、多種多様な形からイメージを広げていった。それは、子どもが毎時間の授業の終わりに書き記したワークシートや日記から読み取ることができる（資料1・表1）。（表1の■：形に関すること、▲：“キモチ”に関すること、○：道具の使い方に関すること、◎：身边材選びに関すること、と教師が見取ったもの）。■▲合わせて22名いることから、子どもは自分の思いを明確化し、つくっていたことが推察できる。『楽しい、ゆったり、のんびり』等は曲線で、『いかり、おそろしい』等は直線を用いたものが多かった。

今日の図工で、キャンパスづくりの最初の段階の形を切り取る作業をしました。僕はいかりのキモチを表そうと思ったので直線を多くした。
3児

（略）「カラフルキャンパス」をつくって自分のキモチを伝えます。僕はのんびりした気持ちを感じさせようとしたかったので、丸っこくやさしい感じにしました。
13児

資料1 子どもの日記より
直線や曲線の効果に着目しているのがわかる

(番号は紀要上の番号 平仮名等の記述は紙幅の都合上漢字に直して提示する 以下同じ)

No.	つくる“キモチ”	段ボールでのキャンパスの形づくりのふりかえり 記号は教師の見取り
1	びっくり	曲線と直線では 違う感じが出るのはなぜかなあと思った■
2	いかり	上手く段ボールが切れなかった○
3	いかり	凸凹がとつてもきつい感じにつくりたい 段ボールの面積が広くなるように切るのが難しかった■○
4	不思議	自分が表したいキモチはなかなか表せなかった▲
5	ゆったりした→ ぶきみ	ゆったりした形を考えた 段ボールカッターのコーナリングが難しかった■○
6	不思議	角をなくしてゆるゆるにした■
7	いかり	欠席
8	いかり	重ねて作るのをやってみたらきれいのできたのですごかったです■
9	不思議	段ボールを切るのも難しかったし 気持ちも表しにくい もうすぐで切れる○▲
10	いかり	段ボールに絵を描いた時は大きく見えたけど切ったら小さかった
11	いかり	欠席
12	おもしろい	考えるのが難しかった
13	のんびりした	一番難しかったのは切る作業と形を考えること のんびりほくできたと思うれしかった○▲
14	いかり	カッターで切るとき無念にも形が潰れてしまった 残念○
15	ポヤー	色々なもう使えないような材料でも凸凹があって使えた◎
16	おそろしい	ギザギザに挑戦しておそろしい感じができて良かったです■▲
17	いかり	切るときにあとをギザギザに残して工夫しました■○
18	たのしい	段ボールカッターで段ボールの皮みたいなのところを切ってほこほこを出した■○
19	元気に	カクカクびんびんした感じ 形を決めるのは難しかった■
20	ぶきみ	今まで色々なことで指を切ったがまほ大丈夫○
21	のんびり	わたしはもわもわしたのが好きと思っていたのに なみなみのほうが好きとわかった■
22	すすしい→ぶきみ	記述なし
23	情熱的	とにかく「自分流」を大切にいろんなものをつけた◎
24	たのしい	形を切るのがとても大変 布やスポンジや毛糸やリボンなどを使って作りたいです◎
25	やさしい	段ボールでキモチを表すのが難しい 段ボールカッターでできるのが難しかった▲○
26	ネムタイ	記述なし
27	やわらかい	記述なし
28	よくわからない	始めは悲しい気持ちにしようと思ったんだけど形を決めたとき違う感じがしたからかえました▲
29	たのしい	丸っぽい形が好きなので丸っぽい曲線の変った形にした それも少し楽しい形に思えてきて(自分が)変わったと思いました■▲
30	たのしい	カッターで段ボールを切るのは大変だったけど思っていた形に切れてよかった○
31	たのしい	なるべく自然な感じにしたいとやわらかな曲線にした 段ボールカッターが大変だった■○
32	たのしい	ワクワク楽しい感じ▲
33	たのしい	ひさしぶりに段ボールを切ったから大変だったし難しかった○
34	ゆったり	全体的に丸っこいの 最初はゆったりな気持ちというのでなんとなく「だるま」がうかんできたのでだるまのような形にしました 少し小さかったと思います■▲
35	たのしい!!	記述なし
36	たのしい	記述なし
37	何がなんだかわからない気持ち	段ボールが小さかったため形を切るともっと小さくなった その分中の形に特徴をつけたい◎

表1 つくりたい“キモチ”と段ボールを使ったキャンパスの形づくりのふりかえり【No.1のワークシートより】
形に関すること■—13名 “キモチ”の表現に関すること▲—9名 道具の使い方に関すること○—14名 身辺材料選びに関すること◎—4名

—【② 製作I】の流れ～1—

1 凸凹ホワイトキャンパスをつくる①

○“キモチ”のイメージを「材料」「構成」にこだわってつくる

「段ボールカッターでキャンパスの形切ろう」

「曲線を切るのが難しいな」

「布やこつぶ(小さな石)を使って自分の“キモチ”を表現したい」

「みんなはどんな材料を持ってきたのかな」

「先生の作品はうれしい“キモチ”だから布を太陽みたいな形に貼っていた」

「バンドも盛り上げて使うと凸凹が出来るよ」

「身辺材を貼って凸凹を作ると自分の“キモチ”が伝わるかな 隣の人に見てもらおう」

② 製作I

I 感じ考え表現するステージで

ウ 「価値観」を広げ更新するステージで

○“キモチ”のイメージを「材料」「構成」にこだわってつくる

製作にあたり、本題材のキーワードである『“キモチ”を伝える』に立ちかえり、「材料」「構成」にこだわってつくるというめあてを確認した。身辺材の構成、液体粘土の塗布までの凸凹ホワイトキャンパスづくりの工程において、そのめあてが有効に機能した。表2の記述から、材料選びのこと(☆)30名、キモチを表すための構成のこと(★)15名、液体粘土の効果のこと(▽)4名の記述がみられた。子どもは材料選びにこだわって、構成を意識し、表現の幅を広げていったと考える。子どもは、何となくつくるのではなく、自分のイメージを具現化させるために意図をもってつくることができた。

その具体的な手だてとして、“キモチ”のイメージを示す象徴的な具体物を「材料」選びや使い方、それらの「構成」を工夫して凸凹画

面に表すことを確認した。それは、表2の記述にあるように、のんびりした“キモチ”は丸い形の「材料」を使ったり、情熱的な“キモチ”は布を『バラの花のような形』に貼ったりしていたことからわかる。

この段階でも『“キモチ”を伝える』ことが出来ているか、隣同士が相互鑑賞で確かめ合った。身近材の色や素材感の違いからか“キモチ”は伝わりにくいという意見が多かった。相互鑑賞は、短時間でできる隣同士で行うことが多かったが、毎週授業の最初に座席替えを行い、児童がいろいろな相手とかかわりをもつことをねらった。

子どもはイメージを表すために材料を選び、意図に合わせて素材の形を変えながら構成していた。実際の姿やふりかえりからみられた。それまでの手だて『“キモチ”を伝える』に意識が向いて「かかわり」が活性化したと言えるのではないか。このように活動の中で、「かかわり」を活性化することで、自分の感じ方や考え方が広がり、求める表現につながり、自らの価値観が更新されていくと考える。

No.	凸凹ホワイトキャンパス ふりかえり	No.	凸凹ホワイトキャンパス ふりかえり
1	細くて透明な緩衝材で 一瞬びっくりして何かなんだかわからなくなる感じ ポンドをマヨネーズみたいにしたら面白い★	20	こつぶ 紙 ふきみな感じに 自分で考えてはったりした自分は予想通りふきみに出来た★
2	木屑や毛糸でいかりを表した 自分のが(キモチが)ちゃんと伝わった★	21	糸 毛糸 ビーズ 布 こつぶで遊んでいて「むじゃき」という感じを…+「海」丸っこい物を作った 昨日はもじゃもじゃだったけど落ち着いた感じになった 「むじゃきに遊ぶ」ということをイメージ 海も表現して楽しいをだした ★
3	砂 プラスチック 箱 紙粘土 木★	22	布や砂 毛糸などを使う 木のきれはしも使って海をイメージした 前まで少し目立たないのが好きだったけど少し大きいのもつくれるようになった★
4	あみあみのものをよくつけた へらで細かい模様をかけた(ポンドで)★	23	布でバラを作りイメージとは少し違うけどにぎやかな感じにした 「自分流」を大切に自分しか思いつかない物を使いました 例えばただひもで名前を書くのではなくひもの上に砂を付けました 色があつた時とはまた違う感じでよくなった★
5	モール ひも 毛糸 で楽しい感じ →相手に(キモチが)伝わりやすかった★	24	毛糸やビーズなどをつかった テコポコにするためにテコポコなものを貼った★
6	不思議	25	不織布と木の干切りとかでバラをイメージして作った もので感じを表すのは難しい★
7	かなり凸凹を使ったのでいかりを表した いろんなところにつけたらそれぞれ 生クリームみたい ★	26	こつぶ スポンジを使った★
8	こつぶ(小さい石)等を使ってうれしい感じにした 白くなくした前はぐちゃぐちゃだったのがきれいになった 色が少し残った★	27	スポンジみたいなものやひもを使ってやわらかい感じにしました★
9	いろいろな材料で不思議 いつもならめっちゃくちゃにやるのに今日だけなぜかしっかりやっていた 自分では作品が上出来た★	28	色々なビーズや布・木をスライスして糸状にしたものなどを使ってよくわからない感じを出しました★
10	はげしいでこぼこでずさまじい感じに(液体粘土は)どろどろしていてビーズのきれいな色を隠してしまうけど凸凹を強調できるもの 作品が激しく凸凹しているのが見えるようになった★	29	布を工夫して丸めて花のようなかたちにしてみたり干切りキャベツ(木の緩衝材)を丸めて色マエしました★
11	いろいろな材料でいかりを再現★	30	毛糸や気泡シートを使ってたのしい感じにしてみました 凸凹を多くしてポンドも使用 白くしても感じが出るようにしたつもり ポンドも凸凹に使うと自分の好きなように出来てよかった 「たのしい」感じがするかな?★
12	ざらざらの物でおもしろくしました つぶも面白いことをしました★	31	キルトの布も貼った 果物のあみの上にパッキンなどをかぶせてポコッとしたようにした 山などをイメージした★
13	気持ちのがんびりなのでできるだけ丸い材料をよく使いました 薄い発泡スチロールをよくくっつけて空や雲や鳥を表現しました ひもなどで丸などを作ったりストローを立てて使ったりしてのんびり感を出せたし沢山貼り付けたのでよかったです ★	32	ぬの・ビーズ・クリップ・ひも・毛糸・片面段ボール 楽しいワクワク感をだしたいから「たのしい」遊園地をイメージする ★
14	細かい凸凹でいかり ひも こつぶなどを使った 去年と比べて表現の仕方がうまくなった 今日それがぐ〜んとのびたよう★	33	ぶちぶち アイロンビーズ わた 木くす 石 少し凸凹★
15	モヤモヤとした材料でポヤ〜とした感じに こんな感じにしようという気持ちで成長したと思いました 自分で考えてつけた★	34	なるべくゆったりだからふわふわ丸っこい物 粘土を塗ってみるとちがう感じに見えてきた 裏と表の鏡のようでもなんか違う感じが ゆったりと言う色は水色や黄緑系だと思えます だから水色などを工夫して作りたいです★
16	プチプチマットやそんなのをなるべくくっつけて段ボールの色が見えなくなるほどやりました 自分流でやるつもり★	35	記述なし
17	プチプチマット 毛糸 みかんのふくろ 石 わら 砂 ビーズ 毛糸とプチプチマットでもやっとしたふうに 石などを組合わせておこった感じにした★	36	色んな砂で元気な感じ カラフルにしてみました するととても元気というのが出せました とっても凸凹にできました たくさん凸凹を作ってみんなの作品をみてみたいです★
18	段ボール 廃材 木くす プチプチマットなどで楽しい感じにした★	37	ひも あみあみ こつぶ(砂) 何かなんだかわからない感じに頭の中で考えているという感じ 液体粘土に指であとをつけて凸凹をつくれた おもしろい工夫が身についた★
19	布や砂で砂浜に打ち寄せる波を想像してポヤ〜とした元気な感じを表した すごく自分の元気な感じがしてきていいと思う★		

表2 製作Ⅱ 凸凹ホワイトキャンパスづくりのふりかえり 【No.2のワークシートより】
材料選びのこと★ “キモチ”を表すための構成のこと★ 液体粘土の効果のこと★

—【② 製作Ⅰ】の流れ～2—

1 凸凹ホワイトキャンパスをつくる②

○液体粘土の塗布

「四人一組の班で粘土を使うよ 準備をしよう」

「初めて触るよ なんだか気持ち悪い」

「刷毛で塗ってみよう」

「手を使うときれいに塗れる」

「白くなったら感じが変わった」

「触ってみると意外に気持ちいい」

「塗りすぎたら凸凹が消えてしまった！」

2 学習をふりかえる

○作品を隣同士で見合う

「白いままでは“キモチ”が伝わらないみたい」

「伝わるような色を着けて仕上げよう」



写真1 製作の様子（液体粘土を使って）

○液体粘土の塗布

子どもが液体粘土という新しい材料に出会う場面である。準備・製作・後片付けに至るまで自然とかかわりが生まれるように、四人一組の班で活動した。製作の様子がお互いの視野に入り、自分の作品に生かされることも期待した。しかし、予想以上に液体粘土に興味を示し、夢中でつくっているうちに粘土を塗りすぎて凸凹が消えてしまう者や進度の遅い者が出てきた。気づいた同じ班の友達の助言や手伝いによって、完成させることができた（写真1）。最初は、予め用意した刷毛を恐る恐る使っていたが、手のほうが塗りやすいことに気が付き始め、粘土の感触を楽しんでいるようだった。五感を働かせて活動する様子は、子どものふりかえりや日記にも記されている（表2・資料2）。

○作品を見合う

真白になった作品を、先週と違う隣同士のペアで見合う。身近材の色が消え、白一色になった作品を見ることで、まだ『“キモチ”を伝える』ものになっていないという思いをもった。その思いから話し合い、伝わるように色をつけることを喚起することとなった。

白くてドロドロの液体粘土。
今日はそれを作品の上ののせた。
見たときは簡単にできていて、や
っても簡単だった。でもなかなか
白くならなかった。あいたがあく
から手でやったらドロドロで気持
ちよかった。手でやれば簡単！！
7児

今日5、6眼目の図工で液体粘
土を塗りました。白くてぬめぬめ
していてやわらかくてとろとろし
ていて気持ち悪かったです。その
液体粘土を塗ったら終わりかと思
っていました。でも先生が「大変
なのはこれから」と言ったので「え
っ?」と思った。 22児

資料2 子どもの日記から

—【③ 製作Ⅱ】の流れ～1—

1. 凸凹カラフルキャンパスをつくる

○参考作品（サム＝フランス）を見て色の表し方について思いをもつ

・向かい側の人と“キモチ”を当てこする

「あんまり上手く伝わらない」

「伝わるように色をつけよう」

・参考作品（サム＝フランス）を見て

「不思議な感じ 訳は青い色の中に赤っぽい色が見えるから」

「点線が寂しい感じに見える」

「次の赤っぽい作品は太陽みたい」

「赤いアジサイみたいにみえる 明るい感じ」

「最後の作品はいろんな色や魚みたいな形が見えてくちゃくちゃな感じ 不思議な感じ」

「悩んでいる感じにも見える」

「まっすぐな線とか形で気持ちが伝わる」

「色々な“キモチ”を伝えるために大切にすることは色・形や線・表れが共通していた」

○色・形や線・表れにこだわってつくる

・着色を始める

「かすれたりにしんだり絵の具の表れも大事」

「色々なテクニクを使ってみよう ビー玉やローラー、スポンジなども使えるよ」

「水の量 混色に気をつけて色を塗ろう」

③ 製作Ⅱ

イ 感じ考え表現するステージで

ウ 「価値観」を広げ更新するステージで

○参考作品（サム＝フランス）を見て表し方について思いをもつ
4枚の作品から『“キモチ”を伝えるには色・形や線・表れにこだわってつくる』というこの時間のめあてを導き出し、個々の表現方法を探る場面である。

最初に、子どもを黒板の前に集めた。そうすることで、作品に間近に接し、子ども同士が自由に意見を出しやすくなる。次に、抽象的な表現で寒色系の作品2枚、暖色系1枚、寒暖色複合系1枚を順番に1枚ずつ提示し（写真2 左）、話し合う場面をもった。

作品から受ける感じ（“キモチ”）とその根拠について、教師が『この作品は「さびしい感じ」がしたよ。黒っぽい青色でまっすぐな形、かすれたような感じに見えるから。』のように色・形や線・表れを意識して話した。発言の具体を示したことで、子どもはそれに習って作品から受けたイメージを広げ、根拠をつけて話すことが出来た。

寒色系の作品でも曲線を使った形があると楽しく感じたり、絵の中の形から“キモチ”を予想したり、1枚の絵を色々な視点でとらえていた。発言する子、黙って思いをめぐらす子、参考作品を通して「かかわり」が活性化され、子どもの中で様々な価値観の更新が行われていたと考える。この活動の中で得た知識（見方・感じ方）を取捨選択し、以降の自分の作品の表現へとつなげようとしていた。参考作品からの気づきを問うと、色・形や線・表れに着目し、中でも、“キモチ”を表すためには特に色に効果があると考えていたことがわかる（表3）。

○着色途中で、同じ“キモチ”をつかった者同士で作品を見合う

前段階で獲得した知識に、自分なりの考えを加えて、実際に作品に試してみた結果、今の表現でいいのか子どもが作品を比較し、類似点や差異からよりよい表現を探る場面である。

子どもは16種類の“キモチ”づくりに取り組んでいる。それを比

較するために、似た“キモチ”を七つにまとめたグルーピングを行った。活動の始めに、集合場所を間違えた者に「そ

れ、やさしい？不思議じゃないの？」と声をかけ、自然と「色・形と線・表れ」を観点に作品を比較する姿が見られた。各グループで、「色・形や線・表れ」を観点に作品を比較し見合った。その後、類似点をまとめて板書し、自分の“キモチ”を表現する指針とするためのマトリックス表を完成させた(表4)。この表から“キモチ”を表現するには色々な表現があり、違う“キモチ”でも似た表現があること、これ以外の様々な表現の可能性にも気づかせたかった。同じグループの作品から見つけた差異から、自分の作品に生かせる所は取り入れるようにした。これらの活動で、子どもは

一【③ 製作Ⅱ】の流れ～2～

○着色途中で、同じ“キモチ”をつくった者同士で集まって作品を見合う(*1)

- ・同じ“キモチ”の作品の類似点を話し合う
「それ やさしい？場所間違えてるよ」
「いかりの“キモチ”は形が鋭いし赤や黒」
「楽しい“キモチ”はみんながマゼンダや赤系の色や黄色などを使っていた」

「違うところもワークシートにまとめよう」

- ・共通点を黒板のマトリックス表にまとめる
「“キモチ”を表す特徴が見えてきた」
「違う“キモチ”同士でも共通点があるね」

○着色の仕上げをする

- 「だんだん思い通りの作品に近づいてきた」
「友だちの作品から生かせるところを取り入れて思い通りに仕上げたよ」

「かかわり」を活性化し、自らの感じ方・考え方を更新し、表現の幅を広げていったことが作品の変容からも読み取れる(写真5)。

また、表5の記述から、子どもは色・形や線・表れの観点やかかわりの重要性に気づき、成果を実感していることがわかるが、34児のように、グループでの相互鑑賞の結果、迷いが生じる場合も見られた。同じ“キモチ”がいなかったため、似た“キモチ”でグループピングをしたため、活動がうまく機能しなかったことが予想される。グループによって人数もかなり違っていたため、グループピングの方法が反省点として挙げられる。また、設定した時間が充分ではなかったため、自分の思いが持てずに話し合いが深まらなかったグループもあった。



写真2 参考作品から自分の表現を探る—スポンジを使って着色

No.	参考作品からわかったこと・感じたこと	No.	参考作品からわかったこと・感じたこと
1	形に丸みを帯びさせるか、かくかくにするかで感じが変わる 色は、赤や黄・黄緑系が明るく 緑・青・黒系が暗い 気持ちに感じる ■○	20	すこぶつづつてよく出来ていた◇
2	色を統一していない いろいろな色を混ぜ合わせている ○	21	明るい色(赤・オレンジ・黄・ピンクなど)を使うとうれしい楽しい感じと 思い 暗い色(青・緑・水色・黒・群青など)を使うとドヨーンという感じ ○
3	いろいろな表現の仕方がある	22	同じ人が描いたのに明るい感じや暗い感じがしたし不思議な感じの絵もあったのでおどろいた ◇
4	記述なし	23	色だけでもどういう気持ちかがわかった ○
5	色や形・線でもあらわすことができるがそれらの組み合わせが重要 ■○	24	みんなはオレンジや赤など明るい色を使っていた ○
6	色や線などで感じが変わるといふこと■○	25	色や線の表し方で違うから表すのが難しいと思った■○
7	記述なし	26	記述なし
8	明るいと暗いを使い分けてあってすごいと思った ○	27	不思議なものもあって悲しい感じやさびしい感じもした ◇
9	記述なし	28	その感じたことがでていて形・線・色でその感じたことが伝わるんだなって思いました ■○
10	難しそうに思ったよ	29	一見暗そうに見えても形などを工夫すると楽しいになる 例え一つの線でもそこから感じられることがたくさんある ■○
11	色々な感じが表現できていた	30	一つ目の作品は悲しい感じ 暗い色ばかりで 3つ目の作品は明るくて楽しい感じ 少し黒色もあった こういうのもあるんだ ○
12	ほくは面白い“キモチ”なので明るい色を使ったり曲線にしたらわかるということ ■○	31	私は赤を中心に「楽しい」のなかでもはじけた感じにしたいけれど中には青を使って落ち着いた感じを表しているものもあった ○
13	色や形を変えることでさまざまな表現 ■○	32	形だけでなく色でも感じを表すことが出来るとわかった 私もオレンジ・朱色・黄色など明るい色で楽しい感じを表したい ■○
14	表し方にもいろいろあり 色の濃さ どこに描くか どのように描くか を変えればだいぶ変わると思った ○◇	33	いいお手本になると思う
15	個人個人の感じを出していた 自分の作品にも生かしたい	34	何となく重い色は暗い感じ 軽い？うすい色は明るい感じ○
16	いろんな色を使っても「おそろしい」は出せるということ ○	35	記述なし
17	色の合わせ方が上手い みたことがないものを描いてあって形も自然でしっかり感じ方が出せるようすごい ■○	36	色・形・線に気をつけるとつたわることがわかりました■○
18	色や形で気持ちや感じたことが大きく変わってくる■○	37	記述なし
19	すこくわかりやすく伝わった ほくもい絵にしたいな		

表3 参考作品からわかったこと 感じたこと【No. 3のワークシートより】

色に着目○—22名 形や線に着目■—12名 表れに着目◇—2名

	いかり (8名)	おそろしい (4名)	不思議 (5名)	やさしい (3名)	のんびり (3名)	ねむたい (3名)	楽しい (12名)
色	・赤い色 ・暗い色	・暗い色が多い ・黒青が多い	・色々な色 ・限られた色	・赤 緑 青	・混ぜ色やうすい色 ・ぼやとした色 ・うすい色		・赤系
形や線	・ギザギザ ・いなづま ・細い形	・形がするどい ・細長い形	・曲線が多い	・なみなみ ・くねくね	・曲線やボヤボヤした線		・曲線
表れ	・こつぶ(小さい石)が多い		・色々な色 ・にじませる ・色を少しずつ着ける	・糸を重ねる	・色をたくさん塗る		・てんてんツンツンテクニック

表4 製作Ⅱでつくったマトリックス表— 子どもが同じ“キモチ”の作品を比較し色・形や線・表れの共通点をまとめたもの

No.	凸凹カラフルキャンパスのふりかえり	No.	凸凹カラフルキャンパスのふりかえり
1	場所ごとに色を分けてキモチが瞬間に出た 気持ちが表示された◆☆◎	20	ほくはすぐくデザインがよく出来たと思いました☆◎
2	いろいろ刷毛で混ぜた	21	記述なし
3	色をたくさん混ぜた 暗いキモチを表現できた◆☆◎	22	私のはぶきみだけど明るい作品や違う作品もある ○
4	キモチをテーマにすると似てる絵が出来ることがわかったような・・・☆○	23	12さんの作品がとってもおもしろかった (シャカシャカがきれいいろいろな色が混ぜてあった) ◆○
5	ぶきみに近づけるため緑色や青色を使った◆☆	24	友達は似てるどころもあったけど違う所もあった ○
6	キモチをテーマにすると同じテーマだと似ている作品が出来る○	25	記述なし
7	色を混ぜて暗い色を作ってみた◆	26	感じが上手く伝わった◎○
8	黒色を使ってよりぶきみにした◆☆◎	27	うすい色や濃い色を使って感じを伝えるようにしました◆☆◎
9	みんな共通点があり 気持ちをテーマにすると本当に不思議に見える ○	28	みんな色々な“キモチ”を表していてすごいなと思いました ○
10	いかりとくしみて色を分けれた ◆☆◎	29	今日私は使った砂をイメージして色々な色を筆を使って押して明るい感じをつくれた◆☆◎
11	めちゃくちゃにするどいいかりが表現できた ☆◎	30	「楽しい」はみんな赤やオレンジを使っていた やっぱ他のキモチの人より自分の作品に似ていた◆○
12	シャカシャカテクニックでいい感じになった ◆☆◎	31	私は終わりにコンテをただで後はビー玉でもけっこういい作品になった 楽しかった◆☆◎
13	色々な色を使ってみたらのんびりみたいな感じになってよかった ◆☆◎	32	はけでにじを描いてみただけど色が濃すぎて赤の代わりに朱色を使えばよかったと思った◆☆
14	感じ方を表す時同じよう少し違った感じでもぜんぜん違った○	33	明るい色ばかりでなく暗い色も使ったら元気な風に出る◆☆
15	友だちとの交流で表し方が少し変わりました☆○	34	のんびりゆったりというのはどんな色を使えばいいのかわからなくなった 全体的に暗い色になって眠い感じ?寂しい感じに思えた◆☆▲
16	おそろしいを上手く黒と青で表せてよかった◆☆◎	35	それぞれ気持ちごとに色々な共通点があり色をつくってその気持ちにあったテクニックを使っていた◆○
17	いかりを混ぜ色してやった◆	36	とってもカラフルにしようと思っているとゴチャゴチャになって残念でした◆☆▲
18	画面上で混ぜ色をする 暗い色と明るい色を使うといい色がでた ◆☆◎	37	前に液体粘土を塗ったときと比べると色がついてイメージが出たと思った◆☆◎
19	にこった色を使ったけど自分はいいと思う ◆☆◎		

表5 ~凸凹カラフルキャンパス~のふりかえり 【No. 4のワークシートより】

色・形や線・表れに関する◆—23名 これまでの学習との比較に関する☆—22名 友達との「かわり」に関する○—12名
自分の成果◎—16名 自分の課題▲—2名



写真3 相互鑑賞—同じ“キモチ”の作品を見合い 比較し 作品の共通点を黒板のマトリックス表にまとめる

—【④ 鑑賞・評価】の流れ—

1. 鑑賞会をして学習をふりかえる
 - 「なりきり*アーティスト」の活動をする
 - ・色・形や線・表れを観点に友だちの作品を見つめよう
 - 「少し暗い色を使ってあって無意味でした 黒などを使っていたから」
 - 「不思議な感じがした ぼかしたりクネツとした線をつけていたから」
 - ・作者の前で紹介する
 - 「いかりを表現したが おそろしいと言われた」
 - 「いかりとおそろしいは似ているのかも」
 - 「自分の思い通りに“キモチ”が伝わった キャノンパスの形からわかったらしい」
 - 学習のまとめ
 - ・まとめとふりかえりをする
 - 「友だちとの交流で作品が変わった」
 - 「“キモチ”がちゃんと伝わってうれしい」
 - 「“キモチ”を伝えるために色・形や線・表れを大切にしたらだ」
 - 「“キモチ”が伝わらなくてがっかりした」
 - 「伝わっていても 言葉にすると違ってしまうことがあるよ」
 - 「すごく楽しかった 色々な感情を表している人がいて 聞いたり見たり出来てよかった」

④ 鑑賞・評価

エ 今の自分の「価値観」を認識する場で

○「なりきり*アーティスト」—色・形や線・表れを観点に友だちの作品を見つめる

他者の作品を作者になりきって紹介する相互鑑賞である。色・形や線・表れを観点に友達の作品、自分の作品は『“キモチ”を伝える』ものになっているか確かめ合う。

最初に、男子は女子の、女子は男子の作品を選び、自分の班で紹介していくことにする。ルールは、①作者になりきって話す②『伝えたい“キモチ”は○○です』と言い切る③聞いている人たちは必ず質問するの3点とした。こうすることで、話し手の伝えようとする意欲と聞き手の関心が高まった。

次に、本物の作者の前で作者になりきって作品を紹介する。他者から自分の作品を見つめてもらうことで、作品の相互評価を行う。本実践では、相互鑑賞・相互評価を繰り返し行い、ワークシートなどに記し、それらから子どもの「価値観」の変容を明らかにできた。

また、本実践は『“キモチ”を伝える』を目標にしてきたので、伝わったか否かで一喜一憂する姿が見られた。表6の記述から、子どもは、大切にしてきた観点から得られた成果を実感しているようだった。だが、14児のように色・形や線・表れについて表現を工夫しても、“キモチ”が伝わらないのは相互鑑賞の相手側の言葉の表現力や伝え方の問題が考えられる。それは、言葉と造形表現の整合性の問題も含んでいる。更に、相互鑑賞のもち方にも改善すべき点があった（この2点について成果と課題で述べる）。

No.	なりきり*アーティスト ふりかえり	No.	なりきり*アーティスト ふりかえり
1	形や線も表れに入るといふことを実感した◆	20	思いっきりできるようになった◎
2	上手く気持ちを伝えるのは難しかった▲	21	少し色をぼかすと少し寂しいという色がでました 寂しいという感じをだしてもよかったかな～◆◎▲
3	いかりは思いを変えればおそろしいなどの表現に変わる☆	22	暗い感じが好きになった◎
4	自分の作品のキモチが通じるのかな・・・とは思っていたけど大体通じたので上手いってかな?!と思いました◎	23	相手の人とは違うことを思っていたか相手の人が作ったイメージと私の思ったイメージを比べると少し合う所があった☆○
5	記述なし	24	前より自分のキモチを上手く表現できるようになった◎
6	記述なし	25	色はとでも大切だと思う 私もそれで違うイメージになったので色はこれから気をつけようと思います◆
7	色んなテクニックを使えた 色で少しはずれて伝わらなかった◎▲	26	説明できた☆
8	相手の人が自分の気持ちと同じことを言ったのでよかった◎○	27	もう少し感じが伝わるように工夫して描いてみたいです▲
9	すごく楽しくてよかった色々な感情を表していた人がいたのでそれを聞いたり見たりできたのでよかった◎○	28	私は不思議な感じを出すために色々やっただけど難しくて出来たときこれだっと思ったのが出来てよかったです◎
10	形がいかりに似ていたのできもちがわかってもらったからよかった◆◎	29	私は“キモチ”を表すには色だけしかないと思っていたけれど線や形などでも“キモチ”を表せるようになった◆◎
11	説明を考えるのが難しかったので大変でした。☆	30	楽しいというより明るい感じに?でも明るい=楽しいかな☆
12	面白いに近いことを言われたのでまあまあ相手に気持ちが伝わったのでよかった☆◎	31	大げさすぎるくらい赤やオレンジを使いました やりすぎたかな 楽しいを通りこして「はしゃぎすぎ」になったかも◆☆
13	最初は迷ったけど「のんびり」の気持ちが決まったら表現がふくらんだ 丸いものや曲線を使おうと雲・鳥・羽を表現できた◆◎	32	おそろしい 暗い感じにはどんな表現(色)があるかわかりました◎
14	薄い青に濃い青を重ねて描いたのに気づいてもらえなかったし赤もいろんな赤を重ねたのに 自分で一番いいと思った4つの色をローラーで塗ったところも気付いてもらえず 本当に残念だった◆◎▲	33	あんまりもじゃもじゃ(木くず)を使わないほうが楽しい感じをだせたかも・・・▲
15	凸凹をつけたらまた感じが変わるということがわかりました 色の表し方も工夫できました◆◎	34	みんな明るい色を使うとおもしろいなどをイメージするらしいだから私のおもしろいキモチだと思ったらしいです○☆
16	人から聞いて青・黒はおそろしくなるということを感じました◆○	35	絵を描く時は色使いが大切だ 色一つでだいぶ印象が変わる◆
17	友達楽しいふうや色々感情を表していた 自分のを聞いて暗いというふう感じた しっかり出来てよかった◎◎	36	私が見抜けなかったところを友達は見抜いていてびっくりしました 交流してびっくりすることもあったけど良かったです○
18	楽しいを表すには明るい色と暗い色も使ってカラフルに見せると楽しいと表すことが出来るとわかった◆◎	37	はっきりと自分のキモチをいえたのでよかったです みんな明るい色を使う人が多いとわかりました◎☆○
19	ちゃんと計画して作ってみたいです▲		

表6 なりきり*アーティストのふりかえり 【No.5のワークシートより】

色・形や線・表れに関するもの◆—12名 思いを表現する言葉に関するもの☆—9名 友達との「かわり」に関するもの○—8名 自分の成果◎—19名 (キモチが伝わった—3名) 自分の課題▲—7名 (キモチが伝わらなかった—3名)

6) 成果と課題

①～④までの考察から、本実践を通して、めざす知識創造が充実したと考える。「かかわり」を活性化するための手だてとして設定した『比較を通して「かかわり」を求める思いを高める』『知識創造のプロセスを意識し 四つのステージを設け 有効に機能させる』についても、概ね有効性を確認することができた。中でも、『比較を通して「かかわり」を求める思いを高める』に関しては、個や集団の学びの中心であったと考える。「資料（例示作品や参考作品）の提示」や「自他の作品を見合う相互鑑賞」「毎時間のワークシート」で常に、今の自分となりたい自分・自分と他・今の自分と前の自分を「比較」することで「かかわり」が活性化し、子どもが見方・感じ方・表現を更新できたと考える。それぞれの学習過程で『“キモチ”を伝える』をキーワードに「比較」することで、子どもの目的意識が明確になり、有効な投げかけとなった。

しかし、本実践を通して次の三つの課題が明らかになった。

一つ目は相互鑑賞についてである。鑑賞の観点の具体化、グルーピングの工夫、相互鑑賞のもち方が挙げられる。「色・形や線・表れ」のように鑑賞の観点を提示したのは有効だったが、それが具体的に作品の何を指すのか十分に理解していない者もいた。グルーピングでは③製作Ⅱ～2の（*1）の活動で、「ねむたい」「やさしい」「のんびり」などの少数派は、少しずつ違った“キモチ”でグルーピングをしたので比較対象を見つけにくかった。改善策として、違う“キモチ”同士で人数をそろえてグルーピングし比較する方法や全員が同じ“キモチ”に取り組み、表現の違いを探る方法が考えられる。また、本実践のまとめの相互鑑賞「なりきり*アーティスト」で、どんな“キモチ”に感じたかを作者本人に伝える場面が一度しかなかった。その結果、“キモチ”が伝わった子どもは全体の3分の1に過ぎなかった。相手を何度か替えながら思いを伝えていく場を設定することで、より多くの見方・感じ方に触れることができたのではないか。またそうすることで、“キモチ”が伝わったという思いをもつことができたのではないだろうか。

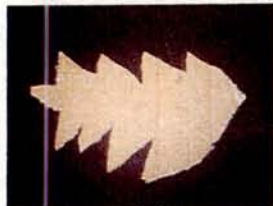
二つ目は学習計画についてである。【③ 製作Ⅱ】でキャンバスに色をつけ始める活動から着色途中で同じ“キモチ”をつくった者同士の相互鑑賞までの時間配分が適当ではなかったため、十分に「かかわり」が活性化しないグループがあった。自分の思いを作品に表現し、互いの思いや考えを出し合い深めるには十分な時間が必要である。このような活動は、時間構成や子どもの実態・全体の学習の流れを考慮して学習計画の中に意図的に組み込んでいかねばならない。

三つ目は造形に対する思いを表現する言葉についてである。途中の相互鑑賞や「なりきり*アーティスト」で“キモチ”が伝わらなかったのは、三つの原因が考えられる。①作品から「色・形や線・表れ」の観点に沿って説明できない場合。発見したことを、自分のキモチとつなげて言葉で表現するような経験を積ませていきたい。日常のワークシートの記述を通し、思いを表現する言葉を増やす、教師の働きかけや支援が必要である。②相手に伝えようとすることに必然性を見出せない場合。他教科の授業や様々な学校生活の中で、「かかわり」の重要性を継続的に指導する必要がある。

③言葉と造形表現の解釈の違いによる場合。一つの作品を見て同じことを感じて、違う言葉で表現することがある。表6の30児の「楽しいというより明るい感じに？でも明るい=楽しいかな」のように言葉の表現に幅を持つと有効な解釈につながったかもしれない。以上のことから、子どもは感じ・考えたことを的確に表現する造形的な語彙力や相手に伝えようとするコミュニケーション能力を豊かにしていく必要があると考える。



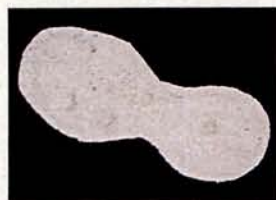
写真4 例示作品—裏(左) 表(右)



3児(いかり)



34児(ゆったり)



6児(ねむたい)

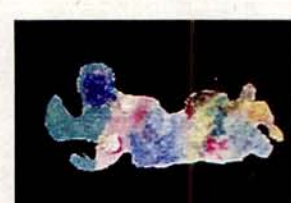
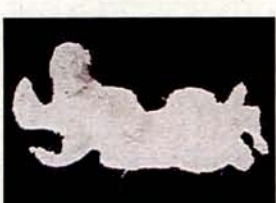


写真5 製作の流れ—作品の変容から